

海域の概要

本湾は、西部を日本海に開いた内湾で、湾内部にはいくつかの小島が点在します。湾内では、ハマチ・タイ・クルマエビなどの養殖が行われています。



Specification

諸元

湾口幅：4 5 4 k m

面積：4 5.8 9 k m²

湾内最大水深：4 0 m

湾口最大水深：3 7 m

閉鎖度指標：1 6 1

備考：環境基準類型指定水域

Location

範囲または位置

山口県大津郡油谷町俵島西端と豊浦郡豊北町本場鼻を結ぶ線及び陸岸により囲まれた海域。

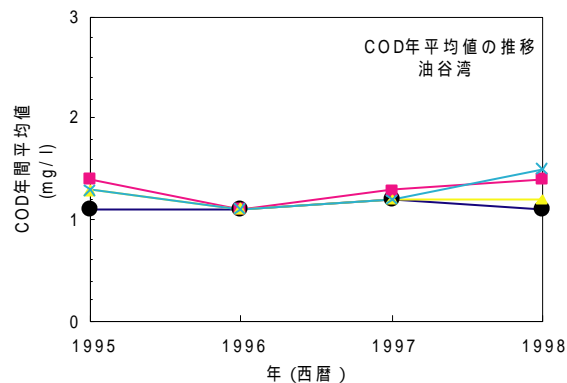


環境

水質は比較的良好で、COD年平均値は、1mg/l 強の値で推移しています。

油谷湾の底質は泥で、南岸沿いにはかなり広い中砂ないし細砂域が存在します。

湾内の水は基本的には湾外から流入してくる外洋水によって占められ、水温、塩分の季節変化も外洋の変動パターンとよく一致しています。最低水温は2月上旬、最高水温は8月中旬に現れ、水温の平均的な季節変化はほぼ外洋的な変動を示します。



自然

油谷湾は、向津具（むかつく）半島に抱かれるように位置する波穏やかな自然を有する湾で、北長門海岸国定公園に指定されています。

油谷湾の入り口、向津具半島の突端にある俵島は、玄武岩の柱状節理からできています。直立、斜立、横臥とすばらしい景観を見せ、地質学上貴重なものであり、陸部には鎧石、海藻の化石リソサムニウムもあります。

湾内には小島が小数あり、これらの周辺と湾奥部を除く南岸沿いには岩礁が発達して、アラメ、クロメ、ホンダワラ類の大きな藻場があります。湾奥一帯の浅所にはアマモ場が形成されています。

油谷湾は、日本海では珍しい内海で穏やかなフィールドであることから、県内外のシーカヤッカーからも関心を集めている湾です。



俵島の柱状節理

文化歴史

油谷町向津具の二尊院というお寺に2冊の古文書が残されています。これは今からやく 230 年前（1766年）、当時の二尊院福林坊 55 世住職恵学和尚が、この地に伝わる話を古老から聞き取り書きとめたものです。

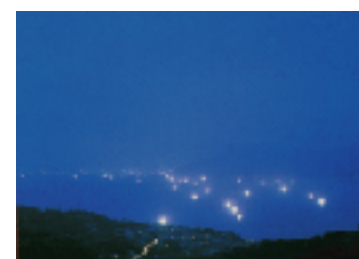
また、油谷町は大陸に近く、古くからその影響を受けていたので、楊貴妃伝説が生まれ現在まで語り継がれています。

産業

中心産業は農業と漁業で、林業と果樹栽培がこれに続き、水産物では、ブリ、タイ、イカ、アジなど、農産物では、米、麦、野菜などが多くなっています。

また、油谷湾では、近年マリンレジャーが盛んに行われています。

このような中で、恵まれた自然環境を生かした産業の創出による交流人口の増大を図るとともに、併せて漁業後継者の育成・定住を図るため、隣接する「油谷青年の家」、「物産センター」などと連携した漁業環境の整備を計画しています。



漁火